

講師

- 「学校における体験活動の意義」 小浜市立内外海小学校長 大森和良
 「教育課程と体験活動の関連性」 小浜市立内外海小学校長 大森和良
 国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職
 「自然体験活動の技術」 グラントリウム代表 大瀬志郎
 国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職
 「安全管理」 小浜市立内外海小学校 大森和良
 グラントリウム代表 大瀬志郎
 国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職

◆運営のポイント

- ・学校生活という日常から脱却し、「海の旅」という非日常に身を置き、多忙の中で失いかけていた感覚を獲得してもらうことをねらった。
- ・決められたタイムスケジュール通りに進行するのではなく、ゆったりとした構成とし、必要以上の助言を行わず、参加者の自主性にゆだねながら自然を体験してもらう構成とした。
- ・参加者は各学校での自然体験活動での運営者となることから、道具・資材の準備・後片付けの一切を含めての活動内容とした。

◆安全管理のポイント

- ・シーカヤックでは専門家の指導の下、機動艇を配置し、十分な監視と安全管理の下で長距離移動を行った。また、漁協、近隣漁家の協力を得て、救助態勢を確立し非常時に備えた。
- ・宿営地は陸路・海路ともにアクセス可能な地点を選定した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	80%	20%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	80%	20%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	75%	25%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・ずっと忘れかけていた、自然を感じる力、感覚がよみがえったような気がします。
- ・楽しむ力が探求心につながるのだと改めて自分で感じることができました。
- ・子どもたちの五感に訴えて自然の中で学ぶこと、そして自然の中での学びと教室での学びとをつなげてやるのが大切だと思った。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・子どもに体験を提供する教員に、まず本人が体験をしてもらうことを主眼としたが、アンケート結果や参加者の声からも大変好評であり、また次年度以降の学校利用でも本事業のコンセプトを取り入れていきたいとの声が多くあげられた。
- ・小浜市教育委員会と連携して事業を実施したが、運営面、実施面で緊密な関係を築くことができ、今後の事業発展につなげる可能性を見いだせた。

(2) 課題

- ・夏期休業中の設定ではあったが、用務上の都合で急な欠席者があったり、全日程参加できない方がおられた。教員が主対象となる研修では日程の選定が難しく、職務との関係に左右される。

5. 活動の様子

